

分科会 6

IPS：個別就労支援 ～リカバリーにおける働くことの意味～

(IPS = 個別就労支援プログラム)

本多俊紀 (NPO 法人コミュネット楽創)
池田真砂子 (JIPSA)
山本大伸・倉口あいみ (IPS 利用者)
大島みどり (NPO 法 NECST)

1. 企画主旨

今回は「人生の転機」と仕事に焦点をあてました。

働くことでより自分らしく暮らす・生きることを応援する IPS について確認し、人生の中で、働くことがどのように影響を及ぼすのか、体験談に耳を傾けながら振り返りました。

2. スケジュール

- オリエンテーション
- IPS とは
- 体験談「人生の転機と働くこと」
- グループワーク シェア

ZERO Exclusion

だれも除外しない

COMMUNET
RAKUSOU

「働きたい」と願う人は誰もが働ける

つまり、IPSとは

COMMUNET
RAKUSOU

- 自分でやりたいことが選べる
- もちろん、その責任も自分でもつ
- 医療・生活・就労の総合支援
- 大事なのは“訓練”ではなく、
実際の仕事の中での“経験”
- **一緒に考えていこう!**

僕(わたし)の人生
その主人公は僕(わたし)だ!

もともと「働く」ために重要なこと COMMUNET
RAKUSOU

希望

- 「働くこと」で病気が悪くなるというデータはありません
- 仕事があまくいく要素、それは「働いた経験」
- 叶わないこともあるからこそその「希望」
- 叶えるためにどうしたらいいかを一緒に考えましょう